

主な検討事項

ここに示した主な検討事項は、消防本部におけるNBC等災害対応実態調査結果、国民保護訓練における課題等を踏まえ、消防庁国民保護・防災部参事官付が本検討会において検討が必要と考える事項を記載したものであり、検討事項を限定するものではなく、適宜、必要な検討事項を加えていくものとする。

【現行マニュアルに新たに追加する事項（爆弾テロを含む大規模テロ発生時における消防活動マニュアル）】

検討範囲

- NBC・爆弾テロ災害において、近年の国際情勢におけるテロ災害及び今後、発生が想定されるテロ災害を踏まえ、オリンピック競技会場のような警戒態勢が取られた場所ではなく、ソフトターゲットにおける大規模テロ災害を検討範囲とすることで良いか。
- また、ソフトターゲットにおけるテロ災害の特性、消防活動上の留意事項は何か。

爆弾テロ災害

- 現行マニュアルでは、爆弾テロ災害への対応要領は取りまとめられていないが、消防本部への調査・ヒアリングから、爆弾テロ災害対応要領の取りまとめの要望が多かったが、爆弾テロ災害の特性はどのようなものか。また、爆弾テロ災害対応要領を取りまとめるにあたり盛り込むべき内容・項目は何か。（部署位置、進入統制ライン等の区域設定、安全確保、救助活動、爆傷を踏まえた傷病者管理 等）

最先着ポンプ隊等の初動対応要領

- 現行マニュアルでは、最先着ポンプ隊等の活動要領は、活動項目が羅列されて記載されているが、大規模テロ災害においては、避難しようとする多数の歩行可能要救助者に対して現場広報・集管理しながら、テロ発生場所特定等のための関係者への情報収集、消防警戒区域・進入統制ラインの設定、応援部隊の要請等を行わなければならないことから、活動の優先順位について検討する必要があるのではないか。
- また、効果的な現場広報要領、聴取項目を絞った情報収集要領、多数の要救助者等の集結管理、応援要請基準等を例示できないか。
- テロ災害の種別・規模等に応じて優先順位も異なる可能性もあることから、モデルケースにおいて例示的に示した方が良いか。

時系列的対応要領

- 現行マニュアルは、テロ災害だけではなく、工場で発生した有毒物質漏洩等の事故も想定したマニュアルになっているが、大規模なNBC・爆弾テロ災害においては、活動における初動からの時系列、必要となる部隊数、大規模な広域応援を前提とした消防戦術等、異なる部分があることから、これまでの国民保護訓練のシナリオを基に、具体的な活動の流れが把握できるよう、モデルケースにおいて例示的に示すことはできないか。

【現行マニュアルの充実・強化事項】

共通事項

- 現行マニュアルは、基本的なNBC災害活動について記載されているが、大規模テロ災害における多数の要救助者の発生に対応するためには、各活動段階において活動の容易化・迅速化を図る必要があることから、現行マニュアル取りまとめ以降に、効率的・効果的に活動を行う上で活用できる新たな知見はないか。
- 現行のマニュアルでは、季節、天候、時間帯等にかかわらず、一定の活動要領を示しているが、寒冷地での国民保護訓練において、要救助者への部分乾的除染の実施や要救助者の除染待機要領についての課題があげられていることから、季節、天候、時間帯等により活動が異なる場合についての検討が必要ではないか。

救助活動

- 現行マニュアルでは、基本的なホットゾーンからの救助活動要領が記載されている。多数の要救助者について、有毒物質の暴露の度合いが大きい者から、効率よくウォームゾーンへ救出し、除染していくことが、要救助者の症状悪化防止につながるが、消防本部へのヒアリングにおいて、有毒物質の暴露の度合いが大きいと考えられる有毒物質の近くにいた者からナンバーリングを行い、救助活動の状況を視覚化することで、救出順位が明確となり、かつ、他の部隊間における連携も取りやすくなるといった活動を行っている消防本部があったことから、こうした多数の要救助者を効率的・効果的にホットゾーンから救出し、一次トリアージを実施できるような活動要領はないか。

検知・同定活動

- 生物剤・化学剤検知器については機種によって検知原理が異なっているが、検知原理によって検知可能な剤種が異なってくることから、効率的・効果的な検知を行うために、検知原理等の資機材の諸元・性能を踏まえて、複数の検知器を組み合わせた検知活動について検討する必要があるのではないか。

除染活動

- 現行マニュアルでは、確実な除染を行うための基本的な除染要領が記載されているが、多数の要救助者に対する除染については、除染待機の要救助者を発生させず、症状を悪化させないためにも、短時間で確実な除染を行うことが必要となっており、国民保護訓練においても課題となっていることから、必要最小限の除染要領や時間短縮につながる資機材の導入などについて検討する必要があるのではないか。
- 水的除染実施後に伴い発生する汚染水などの汚染物質について、「NBCテロその他大量殺傷型テロ対処現地関係機関連携モデル」では、地方公共団体が、その他の現地関係機関との協議により決定するとなっているが、消防本部への調査・ヒアリングでは、具体的な汚染水処理方法についての課題が多かったことから、関係機関との調整が必要不可欠な話ではあるが、消防としてできることは何か。

資機材

- 救助隊の配備資機材については、「救助隊の編成、装備及び配置の基準を定め

る省令」において、救助隊のレベルに応じた資機材の配備基準を示しているが、国民保護訓練においては、必要資機材の整備が進み、対応能力の向上が証明されたとの評価がある一方で、高度救助隊以上を配置する消防本部への調査・ヒアリングにおいては、資機材の充実について課題をあげているところもあり、消防における資機材の配備状況と省令における配備基準について、活動体制に大きな影響を及ぼす課題の有無を、確認する必要があるのではないか。

- 資機材の性能は効率的・効果的な活動を行う上で重視すべきところではあるが、一定の化学剤・生物剤の両方が検知可能な検知器や遠隔操作により検知が可能なロボットの開発などが進められていることを踏まえ、導入可能な先進的な資機材について検討をするとともに、今後、導入が期待される資機材について情報共有する必要があるのではないか。

隊員の健康管理

- 現行のマニュアルでは隊員の健康管理について、熱中症、脱水症、活動後の隊員のケアとして、経過観察や惨事ストレスケアなどについて記載されているが、長時間活動や凄惨な現場での活動といった大規模テロ災害における活動を考慮し、更に追加すべき事項について検討すべきではないか。